

我が国における人文・社会科学系 博士課程修了者等の進路動向

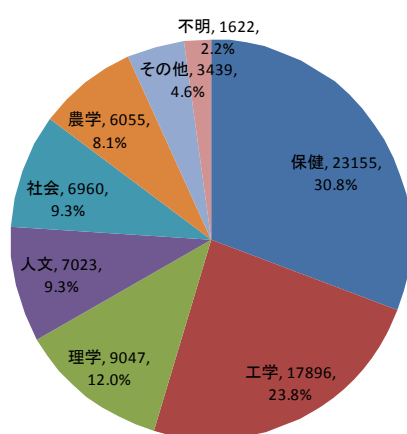
[概要]

中央教育審議会大学分科会の「中長期的な大学教育の在り方に関する第四次報告」では、「人文・社会科学系では、修士課程と博士課程（前期）から博士課程（後期）への進学率は高いが、博士課程修了者等のキャリアパスの中心は、主に大学教員であり、修了者が社会の様々な場で活躍する多様なキャリアパスが学生に十分に明らかにされていない」と指摘されている。そこで本報告書は、我が国における「博士課程修了者等（博士課程修了者及び満期退学者をいう。以下同じ。）」のうち、人文科学、社会科学分野と「その他の研究分野」（教育、家政、芸術等）を専攻していた者の進路動向を明らかにするため、2008年度に実施された「我が国の博士課程修了者の進路動向調査」の結果をこれらの分野に着目して分析したものである。なお、以下の分析では、2002年度から2006年度までの累積値を用いる。

1. 人文・社会科学系博士課程修了者等は女性比率が高い

- 人文科学と社会科学は、各々調査対象者全体の約9%を占めている。うち、人文科学では、文学を専攻する者が3.5%で最も多く、「その他の人文科学」（心理学や文化人類学等）が3.3%と続く。社会科学では、商学・経済学を専攻する者が3.9%で最も多く、法学・政治が2.2%と続く。

概要図表1 調査対象者の研究分野

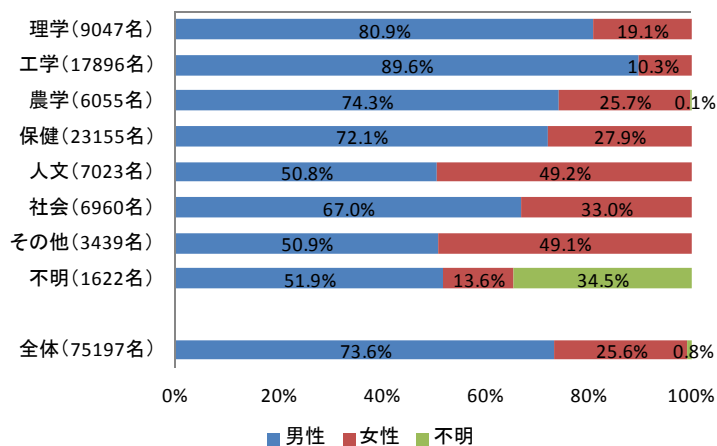


概要図表2 人文・社会科学系の人数と比率

大分類	詳細	人数	全体%
人文科学	文学	2642	3.5%
	史学	1277	1.7%
	哲学	608	0.8%
	その他(心理学や文化人類学等)	2496	3.3%
	社会科学	6960	9.3%
社会科学	法学・政治	1677	2.2%
	商学・経済	2907	3.9%
	社会学	1054	1.4%
	その他(社会福祉、政策学等)	1322	1.8%
	その他	3439	4.6%
その他	家政	166	0.2%
	教育	1739	2.3%
	芸術・その他	1534	2.0%
	調査対象者全体	75197	100.0%

- 人文科学および社会科学分野における女性比率の平均は 40.0%であり、理系分野（理学、工学、農学および保健）における女性比率の平均 19.5%に比べて高い。

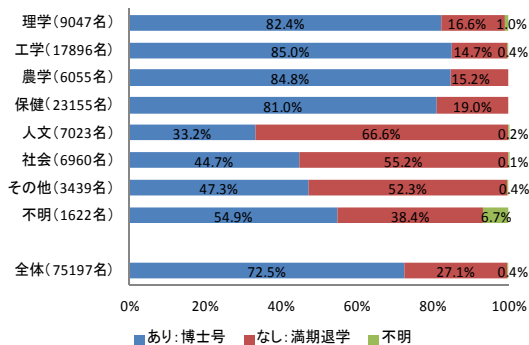
概要図表 3 研究分野別男女比



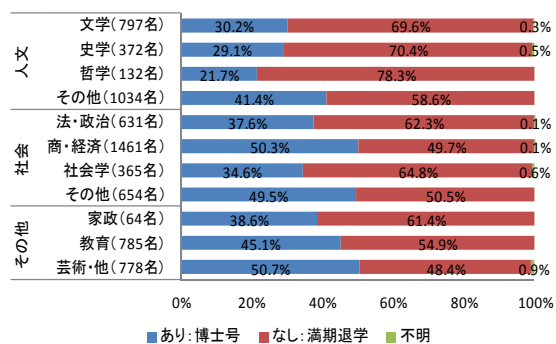
2. 人文・社会科学の博士課程修了者等は学位取得率が低い

- 人文科学の学位取得率は 33.2%、社会科学およびその他の研究分野では 50%を下回っており、学位取得率が 80%以上の理系分野に比べて低い。
- 人文科学および社会科学の中でも、学位取得率には大きな違いが見られる。人文科学の学位取得率では哲学が最も低く 21.7%であり、「その他の人文科学」（心理学や文化人類学等）が最も高く 41.4%である。社会科学の学位取得率では商・経済が最も高く 50.3%であり、社会学が 34.6%と最も低く、続いて法・政治が 37.6%と低い。
- 大学による博士課程修了者等の職業把握率を見ると、人文科学および社会科学分野は平均で 64.6%であり、82.1%である理系分野に比べて低い水準に留まっている。

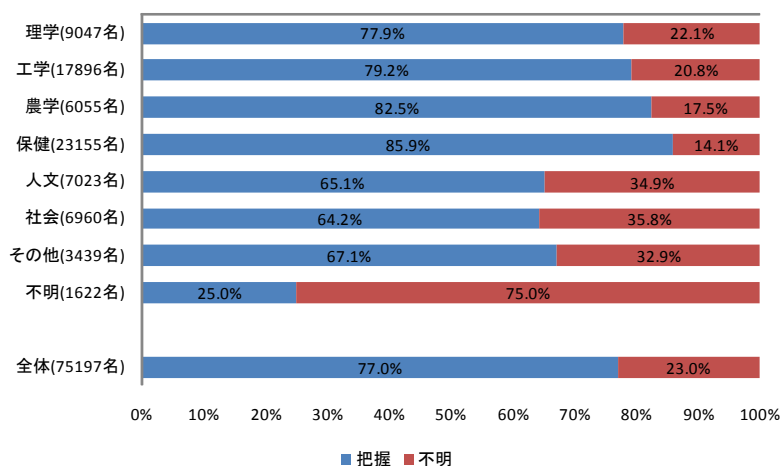
概要図表 4 研究分野別の学位取得状況



概要図表 5 人文・社会科学系の学位取得状況



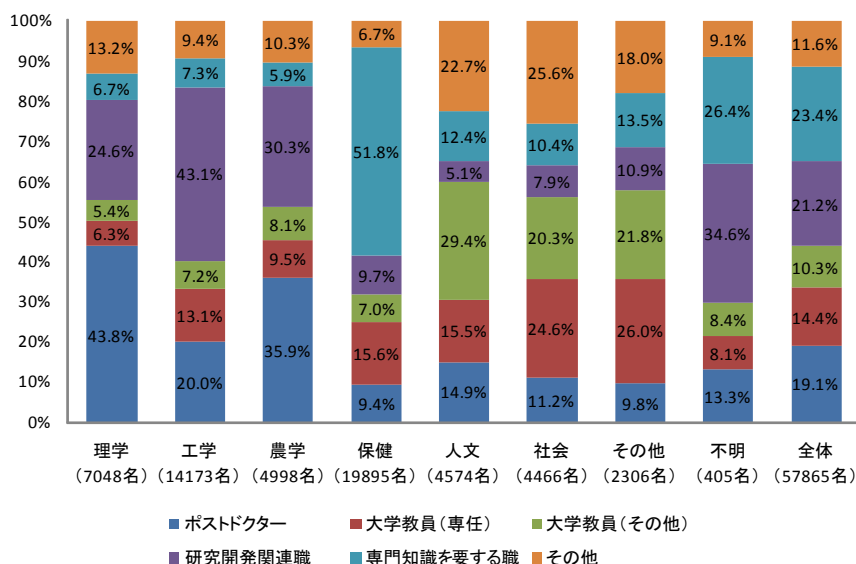
概要図表 6 研究分野別の博士課程修了者等の職業把握率



3. 人文・社会科学の博士課程修了者等が大学教員になる割合は理系分野に比べて高い

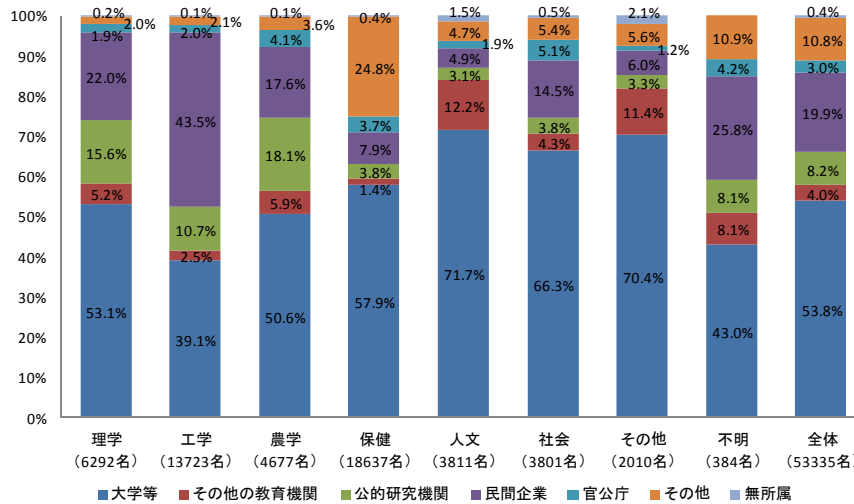
- 人文科学および社会科学の博士課程を修了した者の職業は、大学教員（「大学教員（専任）」および「大学教員（その他）」（非常勤等）を含む）の割合が約 45%であり、理系の 19.7% に比べて高い。
- 人文科学では、大学等に属する者の割合が 71.7%と最も多く、次いで大学以外のその他の教育機関（小学校・中学校・高等学校など）に所属する者が 12.2%と多い。社会科学は、大学等に属する者の割合が 66.3%と最も多く、民間企業に所属する者が 14.5%と次に多い。

概要図表 7 研究分野別の博士課程修了者等の職業（博士課程修了直後）



※職業不明は図示しない。

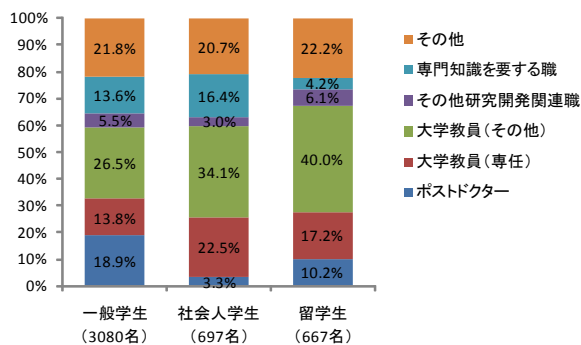
概要図表 8 研究分野別の博士課程修了者等の就職先（博士課程修了直後）



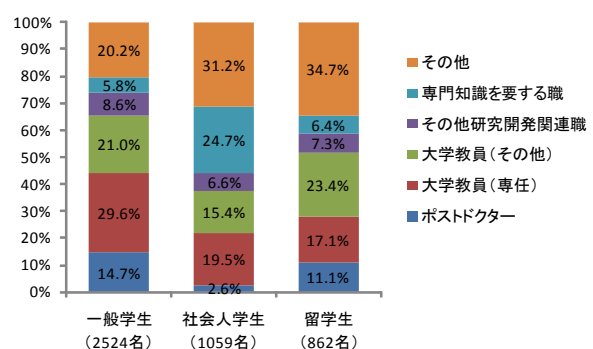
※就職先不明は図示しない。

- 一般学生（社会人学生および留学生以外の学生）の場合、人文科学では、「大学教員（その他）」（非常勤等）になった者が 26.5%で最も多く、「その他の職」に就いた者（21.8%）、ポストドクター（18.9%）になった者が続く。一方、社会科学では、専任の大学教員になった者が 29.6%で最も多く、「大学教員（その他）」になった者（21.0%）、「その他の職」に就いた者（20.2%）が続く。なお自由回答によると、「その他の職」の内訳は、主に公務員（教育、専門知識を要する職を除く）、その他の非研究・開発職（事務職等）、起業（ベンチャー等）等である。
- 社会人学生と留学生の場合、人文科学では、修了後に「大学教員（その他）」になった者がそれぞれ 34.1%、40.0%で最も多いが、社会科学では、「その他の職」に就いた者がそれぞれ 31.2%、34.7%で最も多い。

概要図表 9 学生区分別職業（人文科学）



概要図表 10 学生区分別職業(社会科学)

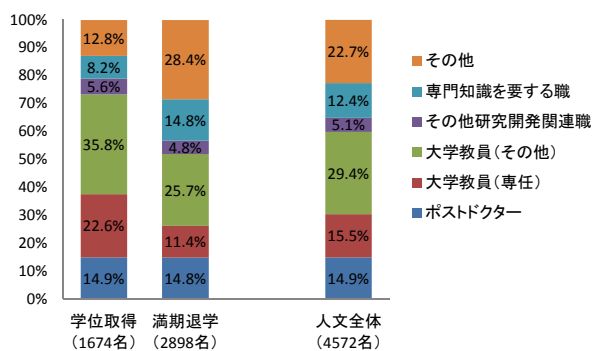


※職業不明、学生区分不明を除く。

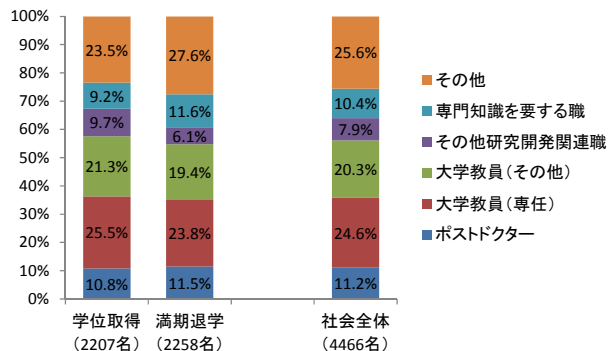
4. 人文科学では学位取得者が専任の大学教員になる割合が高い

- 人文科学では、学位取得者が専任の大学教員になる割合（22.6%）が、学位を取得せず満期退学した者が専任の大学教員になる割合（11.4%）に比べて倍程度高いため、学位取得は専任の大学教員になることに一定程度の効果を与えていると考えられる。一方、社会科学では、学位取得者が専任の大学教員になる割合（25.5%）と学位を取得せず満期退学した者が専任の大学教員になる割合（23.8%）がほぼ変わらない。「大学教員（その他）」（非常勤等）の場合でも同様である。
- 人文・社会科学では、学位を取得せず満期退学した者は、「その他の職」に就く者が最も多く各 28.4%と 27.6%である。「その他の職」に続く職業は、人文科学では「大学教員（その他）」（25.7%）、社会科学では専任の大学教員（23.8%）である。

概要図表 11 学位の有無別職業（人文科学）



概要図表 12 学位の有無別職業（社会科学）

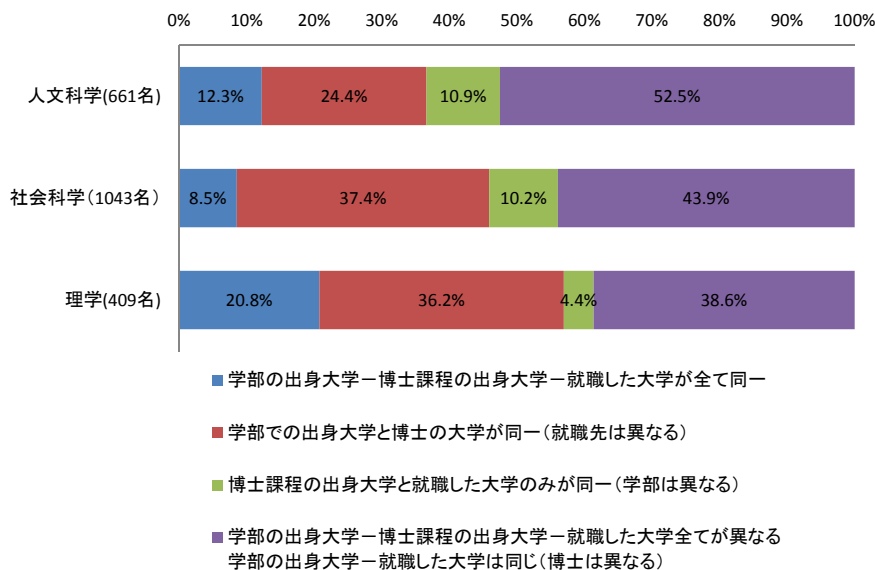


※職業不明を除く。学位の有無が不明の者は表示しない。

5. 人文・社会科学では、大学の専任教員になった者のうち、学部の出身大学、博士課程の出身大学、就職した大学が全て同一である者は1割程度に過ぎない

- 人文・社会科学の博士課程を修了して大学の専任教員になった者がどの程度大学を移動しているのかを見たのが図表 13 である。学部での出身大学、博士課程での出身大学、就職した大学が全て同一である者の割合は、人文科学では 12.3%、社会科学では 8.5%に過ぎない。つまり、人文・社会科学の博士課程を修了した後に専任の大学教員になった者のうち、約 9 割が、大学院もしくは就職時に大学を移動している。
- 理学分野のうち、学部での出身大学、博士課程での出身大学、就職した大学が全て同一である者の割合は 20.8%であり、人文・社会科学では大学の所属と大学の就職に関して理学分野より移動が多い。

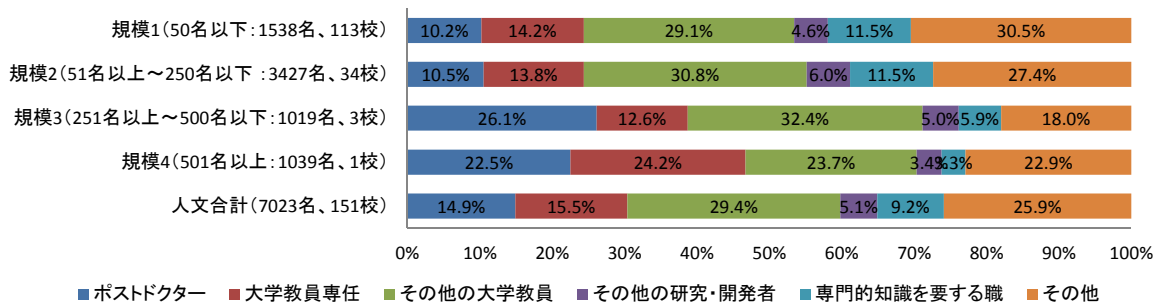
概要図表 13 人文・社会科学の博士課程を修了し専任の大学教員になった者の、学部での出身大学、博士課程での出身大学、就職した大学の一致度合い



6. 人文・社会科学では、大規模大学の出身者は博士課程修了後にポストドクターや大学専任教員になった者が多く「その他の大学教員」（非常勤等）になった者が少ない

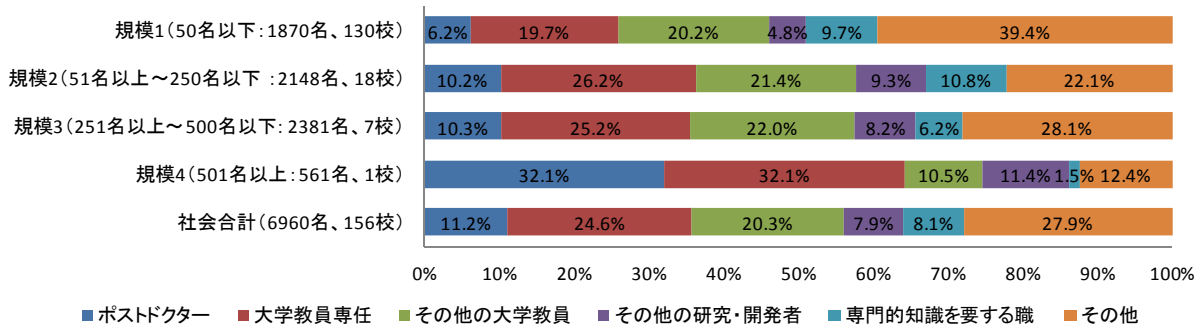
- 調査対象期間 5 ヶ年間の分野別の博士課程修了者等数に基づいた大学規模をみると、人文・社会科学では、理学に比べて規模が小さい大学に所属する者が多い。
- ポストドクターになった者の割合を見ると、人文では規模の大きい規模 3 と規模 4（計 4 校）において 2 割を超え、その他の大学よりも倍程度高い。社会科学では規模が最も大きい規模 4（1 校）の出身者のうちポストドクターになった者の割合が 32.1%であり、その他の大学よりも 3 倍以上多い。理学では規模が大きくなるほどポストドクターになる率が高くなる。よって、人文・社会科学において規模が大きい場合にポストドクターになりやすい傾向は理学と同様であると考えられる。
- 人文・社会科学では最も規模の大きい大学（規模 4）で大学専任教員になる率が高い。理学では大学の規模が小さいほど専任教員になる割合が若干高いため、異なる特徴である。

概要図表 14 大学規模別にみた職業（人文科学）



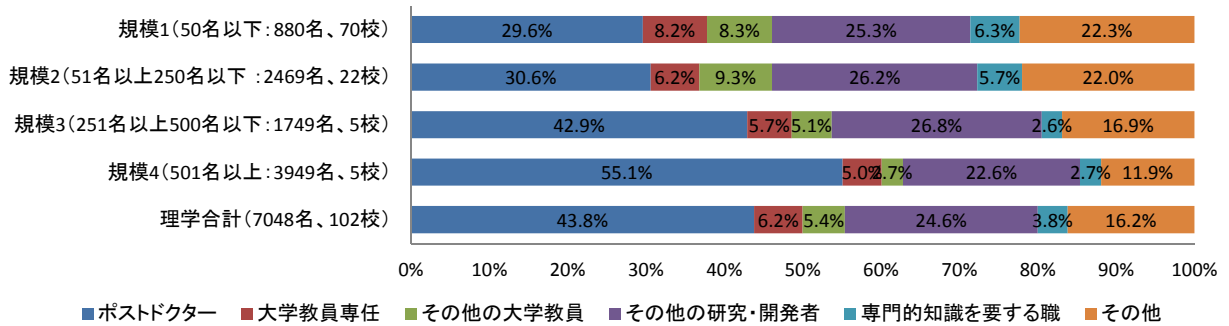
※職業不明を除く。ただし博士課程修了者等数が 0 名の大学は除く。

概要図表 15 大学規模別にみた職業（社会科学）



※職業不明を除く。ただし博士課程修了者等数が0名の大学は除く。

概要図表 16 大学規模別にみた職業（理学）



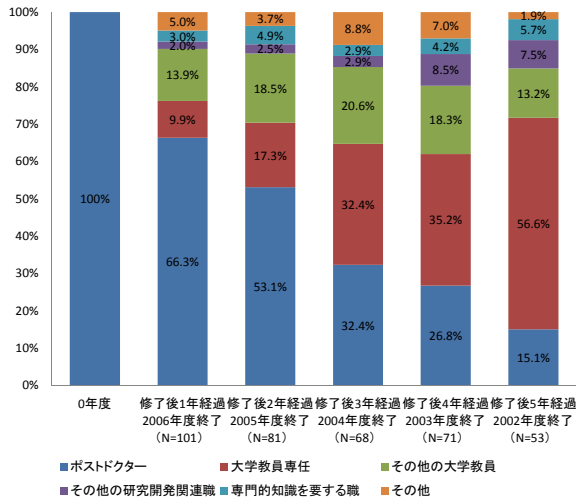
※職業不明を除く。ただし博士課程修了者等数が0名の大学は除く。

7. 人文・社会科学の博士課程を修了直後にポストドクターになった者は短期間で大学専任教員などの職業に移る傾向があるのに対し、「大学教員（その他）」（非常勤等）は5年経過しても職が変わらず不安定な状況に留まる傾向がある

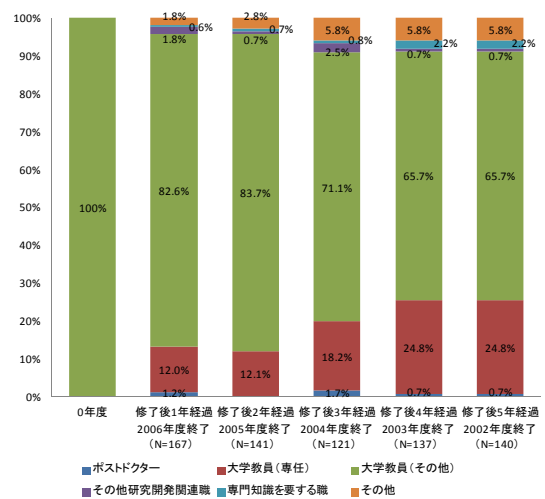
- 博士課程修了直後にポストドクターとなった者は、理学系では5年経過後でも44.5%がポストドクターに留まるが、人文・社会科学では各15.1%、9.3%に過ぎない。
- 修了直後にポストドクターとなった者のうち5年後に専任の大学教員になった者は理学系では33.2%であるのに対し、人文・社会科学ではそれぞれ56.6%、74.4%である。これは、人文・社会科学では、理学系に比べてポストドクターから専任の大学教員へのアカデミックなキャリアパスが主となっていることを表していると考えられる。
- 修了直後に「大学教員（その他）」（非常勤等）となった者のうち時間の経過と共に専任の大学教員職に移る者は、理学系では1年後には12.8%から5年後には20.5%まで、人文科学では、12.0%から24.8%まで増えている。これに対し、社会科学では専任の大学教員である者が1年後には24.5%から5年後には50.0%まで増加している。
- 修了直後に「大学教員（その他）」になった者のうち、5年後も理学系では51.3%、人文科

学では 65.7%が同じ職業に留まっており、不安定な状況が 5 年経過しても続いていることを表している。

概要図表 17 人文科学における修了直後にポストドクターとなった者の現在の職業

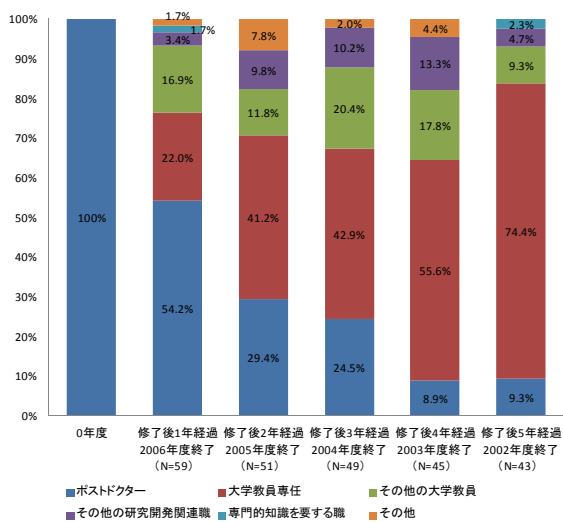


概要図表 18 人文科学における修了直後にその他の大学教員となった者の現在の職業

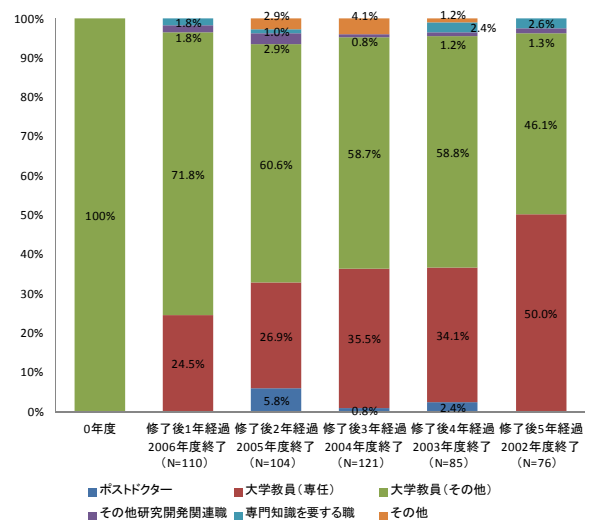


※「2008年4月1日」時点の職業。修了年度から逆算して修了経過年を計算。

概要図表 19 社会科学における修了直後にポストドクターとなった者の現在の職業

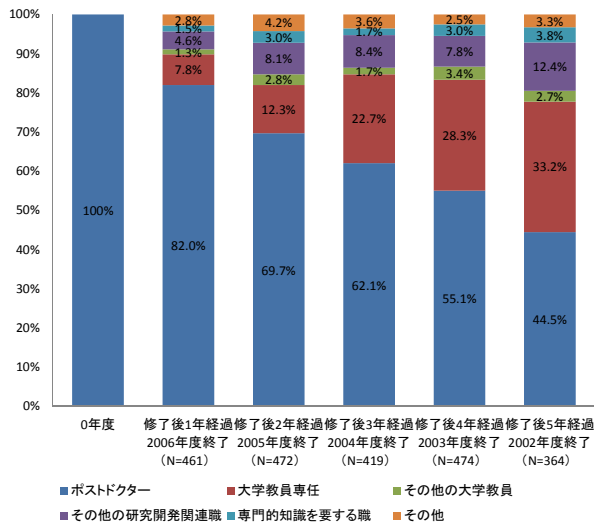


概要図表 20 社会科学における修了直後にその他の大学教員となった者の現在の職業

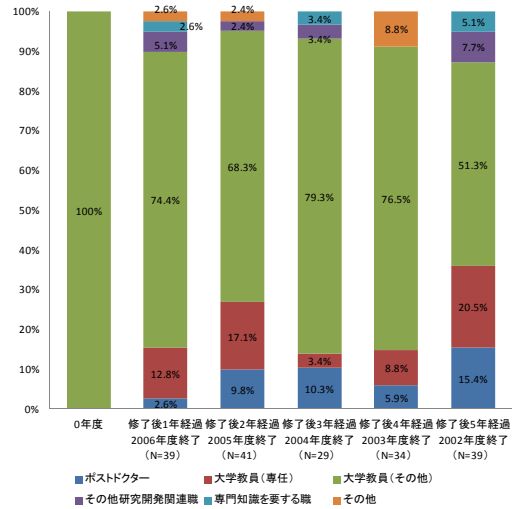


※「2008年4月1日」時点の職業。修了年度から逆算して修了経過年を計算。

概要図表 21 理学における修了直後に
ポストドクターとなった者の現在の職業



概要図表 22 理学における修了直後に
その他の大学教員となった者の現在の職業



※「2008年4月1日」時点の職業。修了年度から逆算して修了経過年を計算。